

謝辞

本論文を作成するにあたり、ご指導いただきました長友先生、岡崎先生、村松先生、佐々木先生、助手の池田さんに心より御礼申し上げます。

そもそも本論文において外国人児童生徒に対する研究に取り組むことができたのは、当代学院における子どもを対象とした日本語教育実習や「子ども日本語クラス」という貴重な機会を得られたことによります。このような貴重な機会を与えてくださった岡崎先生、いつも応援してくださった長友先生、村松先生に深く感謝いたします。

教育実習や「こども日本語クラス」をめぐっては、大学内にとどまらず、いつも快く協力してくださった在籍校の先生方や教育委員会の山室先生と山木先生、母語訳テープを作成してくださった陳姿菁さん、Rose Kawashimaさん、Sくんのご両親、そして友にクラスを担当した院生の仲間たち、この論文は本当に多くの方々に支えられてできあがったものであるとあらためて感じています。

この論文作成に先立ち、2000年12月、第21回お茶の水女子大学日本言語文化学研究会において研究の一部を発表する機会をいただきました。研究会で貴重なコメントをくださいました皆様にここで御礼申し上げます。

最後に、あたたかい励ましをいつも送り続けてくれた家族に心から感謝します。

2000年1月15日 清田淳子